

例年になく暖冬といわれたこの冬も時とともに移ろい、北国秋田にも春の息吹が感じられるようになりました。

今日の良き日、卒業生の皆さんと私達本高教職員が令和元年度秋田県立本荘高等学校の卒業証書授与式をこうして挙行できますことを嬉しく思います。当初の予定から変更となりましたが、本日御出席予定でした御来賓、保護者の皆様には、この卒業証書授与式への御理解に深く感謝申し上げます。また、これまで本校の教育活動に寄せられました御支援と御協力に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

ただいま卒業証書を授与いたしました、全日制課程233名、定時制課程9名の皆さん、御卒業おめでとうございます。本校は、校標に「右文尚武」「質実剛健」「玲瓏同氣」の三つを定め、文武を兼ね備えた人間、強く健やかな人間、そしてここに集う全ての若者が切磋琢磨して人格を高め合うことを理想に掲げています。皆さんは、この理想に向かって、日々勉学や部活動に打ち込んできました。その集大成として本日晴れて卒業の日を迎えることが出来たのです。これは、もちろん、皆さん一人ひとりの努力の賜ではありますが、常に温かい愛情を持って、励まし支えてこられました御家族や先生方、さらには同窓生や地域の方々の御援助のおかげでもあります。支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れることなく、これからも一層精進することを期待します。

卒業生の皆さんの思い出をたどるとき、まず心に浮かぶのはそれぞれの進路目標達成に向け、放課後遅くまで学校に残り、積極的に先生方から指導を受けていたことです。そんな中、私も補習授業や質問を受ける機会がありました。普段なかなか生徒の皆さんと直接ふれ合う機会の少ない私にとって、教師を志した原点に戻れる楽しい時間でした。私のつたない講義にも必死に食らいつこうとする姿、食欲に何でも吸収しようとする熱いまなざしが強く印象に残っています。卒業生全員の夢が実現することを願ってやみません。

皆さんの多くが部活動や学校行事にも一生懸命打ち込み「右文尚武」を実践してくれました。インターハイに出場した端艇部、柔道部、カヌー競技をはじめ、多くの部活動が各種大会で上位入賞を果たしました。中でもカヌー競技において本校から全国優勝に輝く選手を輩出できたことは、学校や地元の誇りであるとともに県民の大きな喜びとなりました。

生徒会最大の行事である玲瓏祭は、今年、くしくも運動会と同じ時期となりました。そのような状況の中、卒業生の皆さんは厳しい日程でも優れたリーダーシップを発揮し、大いに盛り上げてくれました。本高生の優れた実行力と強い団結力が証明された行事でした。

定時制課程では教育方針の一つに、社会と関わり合いながら学ぶ「働学一体」を掲げています。卒業生の皆さんの多くが学業、アルバイトの両立に励み、社会で自立するために必要な資質や能力を身に付ける努力をしてきました。部活動においては、卓球や剣道において全国大会出場を果たしました。これらのことは今後社会で出会うであろう困難に打ち勝つ自信になったと同時に、後輩達にとっても目指すべき目標となったはずです。

今、希望を胸に上級学校や、社会へ羽ばたいてゆこうとしている卒業生の皆さんに私は「理想の未来」について語りたと思います。今年開催される東京オリンピックは人々に夢と希望を与え、経済の発展が期待されます。人工知能は人間の可能性を広げてくれます。世界のグローバル化や情報通信技術の発展は時間と距離を超越し、瞬時に世界中の人々と

つながることを可能にしました。しかし人類がこれから直面する現実からも目を背けることは出来ません。経済格差による深刻な貧困問題、核燃料廃棄物や二酸化炭素排出などのエネルギーに関する問題、そして急速なグローバル化は、今も収束する兆しが見えない新しい病原体の世界的流行、国益をめぐる国同士のいさかいなどの問題も生じています。このような現実を避けて通ることが出来ない時代を迎えています。

哲学者の鷲田清一氏は、社会のあるべき姿をこんな風に述べています。「これからの社会では、組織全体に気遣いの出来るリーダーが必要である。しかし、大切なことは、社会を構成する我々一人ひとりが受け身でリーダーの指示を待つのではなく、自分の頭で考え、それぞれが能力を全開して動くことが出来る賢い市民になることである」と。人口減少に象徴されるように、社会が嫌でも縮小していく時代にあって、いざ公共的な課題が持ち上がった時、ただ他者からのサービスを期待したり、クレームをつけるだけの傍観者であってはなりません。私達一人ひとりが、自ら主体となって、知恵を出し合い、協力して課題解決に当たらなければなりません。そこで人は、先頭に立つこともあれば、メンバーの一員となって行動もする、誰でも主役となれるような、しなり強い社会にならねばなりません。今日この本荘高校から、広い世界に旅立つ皆さんに、そのような柔軟で自立した人になって欲しいという願いを込め、民俗学者であった梅棹忠夫氏の言葉を贈ります。

「請われれば一差し舞える人物になれ」

社会の中では、私達は誰しも人から請い願われる場面があるはずです。それはおそらく人々が困難に遭遇したり、組織が混迷する時です。そのような時、他者や組織のために、自分の出来ることを喜んで行える人物であって欲しいと考えます。いつでも人から請われれば、その求められたことを引き受け、時にリーダーとして、時に良きフォロワーとして、社会に貢献できる人物になることを強く希望します。新しい時代は、あなたたち自身が人を支え、人からささえられながら作り上げなければなりません。

結びに、本日本荘高校を巣立つ卒業生の皆さんとともに、この体育館正面に掲げられた「鳳山児水」の文字に今一度思いを寄せ、お別れしたいと思います。皆さんは、姿雄々しき鳥海山、光清き子吉川という豊かな自然に見守られ、母校となる本高で人生の礎（いしずえ）を学びました。この誇りを胸に、自信をもって一度きりの人生を「正々堂々」と力強く歩んでください。そして、いかなる苦難に遭おうと希望を捨てず、自分の内なる良心を見つめ、人間を信じて生き抜くことを切に願い「式辞」といたします。

令和二年三月一日

秋田県立本荘高等学校 校長 檜尾尚樹